

(130) $\text{Fe}-\text{C}-X_1-X_2-\cdots-X_i-\cdots$ 多元系溶体中の炭素と添加元素 X_i との相互作用
に関する解析

関西大学 工学部 藤村 俊夫 市井 一男

・稻葉 穣嗣(大学院)

1. 緒言

多元系溶体中の成分の活量を推定する方法として、一般には Wagner の活量係数についての 1 次までの展開式が用いられるが、その有効性について詳細に検討した報告は見当たらない。本研究では Schürmann¹⁾ の 1550°C における炭素飽和溶解度の測定値と実測による相互作用母係数の値を用いて式(1)より、主として 4 元系ならばに 5 元系溶体中の炭素の活量を計算し、1 との一致度を検討するとともに式(1)の形式の重回帰式を求めるところにより相互作用母係数 $E_c^{X_i}$ を同時に推定した。

$$\ln \gamma_c = \ln \gamma_c^0 + x_c \cdot E_c^c + x_{X_1} \cdot E_c^{X_1} + x_{X_2} \cdot E_c^{X_2} + \cdots + x_{X_i} \cdot E_c^{X_i} + \cdots \quad (1)$$

また、 $\text{Fe}-\text{C}$, $\text{Fe}-\text{C}-X_i$ 系溶体の実測による E_c^c , $E_c^{X_i}$ の値は各研究者によりかなり差しあり一致していないが、それらの値と同時に推定による値との比較も行なった。

2. 解析方法

式(1)の $\ln \gamma_c^0$ の値は Rist²⁾ が示した式による 1550°C における値 $\ln \gamma_c^0 = -0.5136$ を用いた。
したがって、

$$\ln \gamma_c = -0.5136 + x_c \cdot E_c^c + x_{X_1} \cdot E_c^{X_1} + x_{X_2} \cdot E_c^{X_2} + \cdots + x_{X_i} \cdot E_c^{X_i} + \cdots \quad (2)$$

計算① $\text{Fe}-\text{C}$, $\text{Fe}-\text{C}-X_i$ 系溶体の炭素飽和濃度における相互作用母係数 E_c^c , $E_c^{X_i}$ の値と $\text{Fe}-\text{C}-X_1-X_2-\cdots-X_i-\cdots$ 多元系溶体における炭素飽和濃度 x_c ならびに添加元素 X_i の濃度 x_{X_i} を式(2)に代入して γ_c の値を求め、炭素の活量 a_c を決定した。

計算② $\text{Fe}-\text{C}-X_1-X_2-\cdots-X_i-\cdots$ 多元系溶体の炭素飽和濃度 x_c を用いて $\ln \gamma_c = -\ln x_c$ より $\ln \gamma_c$ の値を求め、一つの系についての各組の $\ln \gamma_c$, x_c , x_{X_i} Table 1. Calculated interaction parameters at 1550°C の値を用いて重回帰分析を行ない式(2)の形式の回帰式を決定した。なお得られた重回帰式と式(2)との対比によって各々の相互作用母係数 E_c^c , $E_c^{X_i}$ を決定した。

3. 解析結果ならびに考察

計算②による相互作用母係数を Table 1. に示した。
なお計算①による a_c 値と計算②による E_c^c , $E_c^{X_i}$ を用いた a_c 値の例を Table 2. に示した。この場合計算①では $E_c^c = 9.90$, $E_c^{Cr} = -2.70$, $E_c^V = -4.87$ を用いた。

Table 1. の E_c^c の値は他の元素の影響を余り大きく受けない、また E_c^{Si} は P, Co, V による影響はほぼ同等であるが P と Co の共存下ではやや値が増加している。

Table 2. で計算①の a_c 値は 1 からの偏差がやや大きくなることによる実測の相互作用母係数を用いた a_c の推定の精度は余り高くない。

文献 1) Schürmann : 35 th International Foundry Congress, (1968) Kyoto

2) Rist, Chipman : Rev. Met., 53(1956) p.796~807

$\frac{\text{solution}}{\mathcal{E}}$	E_c^c	E_c^{Si}	E_c^P	E_c^{Co}	E_c^{Mn}	E_c^{Cr}	E_c^V
Fe-C-Si-P	9.82	11.71	13.77	—	—	—	—
Fe-C-Si-Co	10.26	11.64	—	1.28	—	—	—
Fe-C-P-Co	10.42	—	12.08	1.06	—	—	—
Fe-C-Mn-Cr	9.82	—	—	—	-1.28	-3.40	—
Fe-C-Mn-V	9.92	—	—	—	-1.33	—	-5.02
Fe-C-Cr-V	9.66	—	—	—	—	-3.12	-4.53
Fe-C-Si-V	10.20	11.60	—	—	—	—	-6.31
Fe-C-Co-Mn	10.25	—	—	1.35	-1.05	—	—
Fe-C-P-Cr	9.32	—	13.32	—	—	-2.75	—
Fe-C-Si-P-Co	10.22	13.30	12.20	1.22	—	—	—

Table 2. Activity of carbon in Fe-C-Cr-V solution by the calculation ① and ②

Calculation ①	Calculation ②	Calculation ①		Calculation ②	
		a_c	a_c	a_c	a_c
1	1.06	0.99	12	1.15	1.02
2	1.06	0.87	13	1.12	1.02
3	1.01	0.95	14	1.08	1.00
4	1.06	0.95	15	1.06	1.00
5	1.01	0.93	16	1.20	1.02
6	1.29	1.22	17	1.15	1.00
7	1.15	1.01	18	1.14	1.01
8	1.12	1.00	19	1.12	1.01
9	1.11	0.99	20	0.98	0.93
10	1.04	0.98	21	1.06	1.00
11	1.15	1.00			